

ジンジャー&ピクルス のはなし

ベアトリクス・ポッター さく・え

おおくぼ ゆう やく

ジンジャー&ピクルスのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく





「ヤマネに描いてもかまわんよ」として下さった
（3年寝たきりでも文句ひとつない）
ジョン・テイラーおじいさんに心からささげます





むかしむかし あるむらに おみせが 1けん ありました。まどのうえに かがげられた なまえは 〈ジンジャー&ピクルス〉。

それは ちっちゃな ちいさな おみせで、ちょうど おにんぎょうに ぴったりの おおきさ ー ー ですから リュシンダと かぼうぎジェーンは いつも 〈ジンジャー&ピクルス〉で こまごましたものを かいこんでいました。



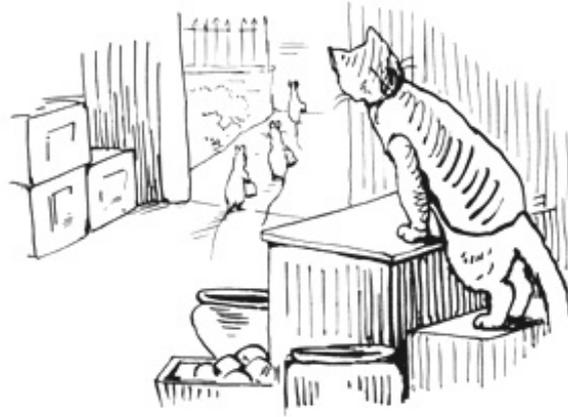
なかの カウンターは ウサギの とどく たかさ。 ジンジャー&ピクルスでは
あかみずたまの ハンカチが どうか1まいと せいどうか3まいで うられています
。

ほかにも おさとうや かぎタバコ あまぐつなども あつかっていて。
なんと こんなに ちいさい おみせなのに、 ほとんどなんでもが かえるのです
—— あわてて ほしくなるようなものは ないことも ありますけど —— たと
えば くつひもとか ヘアピンとか マトンチョップとか。

ジンジャー&ピクルスとは おみせを いとなんている ふたりの おなまえです。

ジンジャーは チャトラの オスねこで、 ピクルスは テリアいぬ。

ピクルスは いつも あなウサギたちに ちょっと こわがられていました。



おみせの ひいきには ハツカネズミも いたのですが ー そのこたちだけ ジンジャーを どうも こわがっている。

というわけで ハツカネズミの あいては たいてい ピクルスに まかされます。いわく よだれが でてしまうから っ。

「がまんできねえんだ。 こつづみ かかえて ドアから でていく やつらを みるだけで もう。」



「わたしも クマネズミあいてだと おなじ きもちに。」と ピクルス。「でもまあ
うちのおきゃくを じぶんで くうなんて あっちゃいけない。ここへは ちか
よらず ぐいぐいタビサのところへ いってしまう。」

「むしろ どこにも いけなくなるんじゃないの。」と ジンジャーの へんじは お
もくるしい。

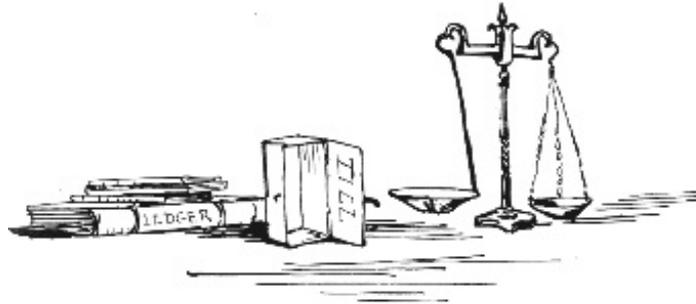
(ぐいぐいタビサは むらに もうひとつだけある おみせの あるじ。 そっちは
ツケが きかないのです。)



ジンジャー&ピクルスでは どこまでも ツケが ききました。

そもそも 〈ツケ〉というのは こういうこと —— おきゃくさんが せっけん
ひとつを かったとして、 そのとき おきゃくさんが さいふを とりだして おし
はらいを するかわりに、 また こんど しはらうよ と しておく。

すると ピクルスは ふかぶか おじぎして、「いいですとも おくさん。」 そし
て ちょうぼに そのことを かきつけておくのです。

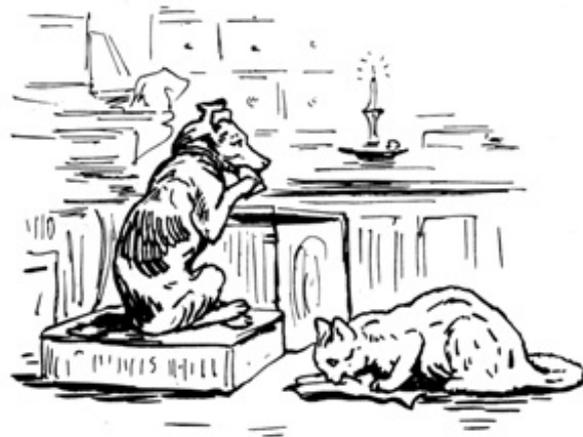


おきゃくさんは くりかえし やってきては たくさん かいこんでいきました。
ジンジャーと ピクルスが こわくても それでも。
ただし その〈こんど〉の おしはらいが いつまで たっても きません。



おきゃくさんは まいにち おおいりで、 キャラメルが とくに たくさん うれ
ていきます。なのに いつも おしはらいが ありません。どうか1まいで かえ
る ペパーミントぽっちにも しはらってくれないのです。

とはいえ ურიあげじたいは かなりのもので、 ぐいぐいタビサの 10ばいは
ありました。



ずっと おしはらいが ないので、 ジンジャーと ピクルスは うりものに てを
つけて たべるしかありません。

ピクルスは ビスケットを たべ、 ジンジャーは タラのひものを くちに しま
した。

ふたりは みせを しめたあと ろうそくの あかりだけで たべるのです。



1がつ1たちに なっても おしはらいが ないので、ピクルスは いぬのライセンスを てにいれるのも ままなりません。

「まったく こまったもんさ、もう おまわりが こわくて。」と ぼやく ピクルス。

「そんなの てめえが テリアのせいだろ、『こっち』は ライセンスなんて いら
ないし、 コリーいぬの ケップだって いらねえのに。」



「ああ おちつかないったら、よびだしをくらうかとひやひやする。ゆうびんきょくでツケでライセンスをもらおうとしてみたんだけど、ダメだった。」とピクルス。「あのあたりはおまわりでいっぱい。かえりしなにもひとりにでくわしたし。

ひげひげサミュエルに もう1ど おかんじょうをおくってみよう、ねえ ジンジャー、ベーコンのツケがはくどうか22まいと どうか9まいぶんもある。」

「あいつ はらうつもり ぜんぜん ねえんじゃないの。」と かえすのは ジンジャーだ。



「それに アナ・マライア どうも 似たもの まんびきしてる ー あれだけの
クラッカー どこいった？」

「てめえで たべたじゃねえか。」と かえす ジンジャー。



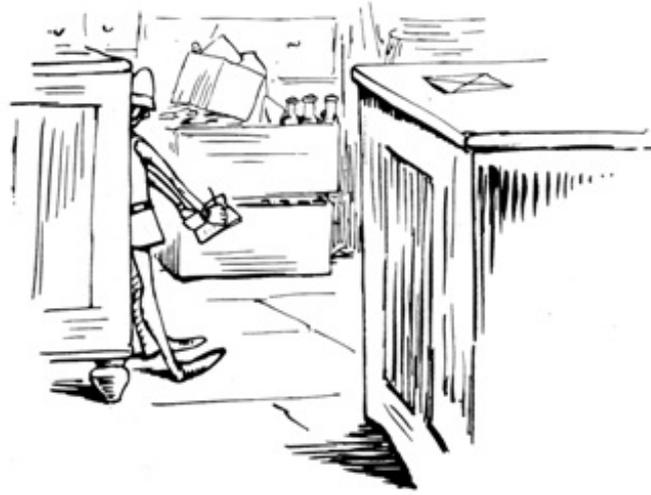
ジンジャーと ピクルスは おくのへやに さがりました。

ふたりは おかねの ではないりを しらべに しらべます。 すうじの れつを たしあわせて たしあわせて。

「ひげひげサミュエル ひげの ながさと おなじくれえ おかんじょう ためてやがる。 10がつからで かぎタバコが 50グラムもだぜ。」

「バター3キロと ふうろう1ぽんと マッチ4ほんで、 いくら？」

「また かたっぱしから おかんじょう おくりつけろ、 のしを つけてな。」と かえすのは ジンジャー。



しばらくすると おみせから ものおと、 なにかが ドアから はいってきたみたい
な かんじでした。そこで おくのへやから でていくと、 カウンターのうえに
ふうとうが ひとつ おかれていて、 そこでは おまわりさんが てちょうに な
にか かきつけていまして！

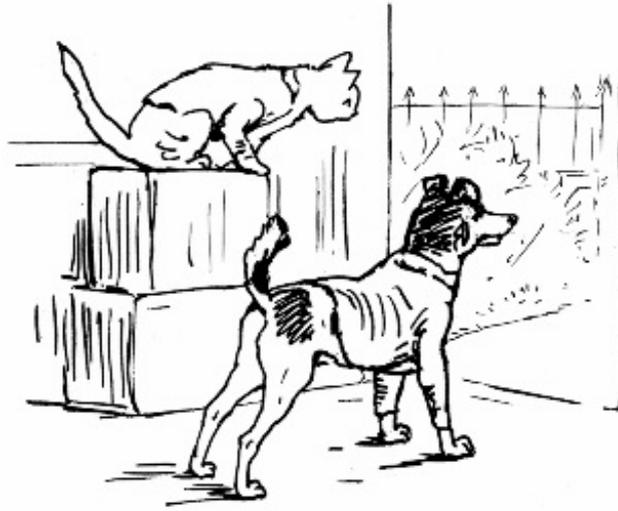
ピクルスは ひきつけを おこさんばかりに、 ワンと ほえ、 ワンワンと ほえ
、 さっと かけよります。



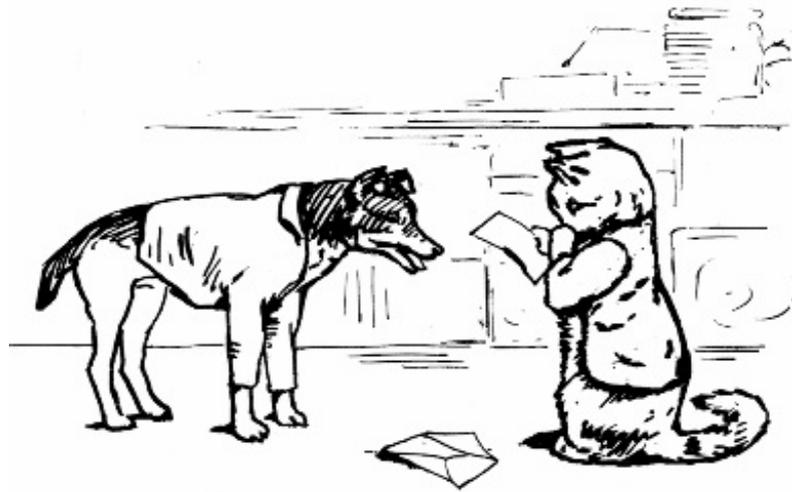
「かんじまえ、ピクルス！かんじまいな！」とおさとうのたるのうらからまくしたてるジンジャー。「そんなのただのドイツにんぎょうだ！」

おまわりさんはてちょうにかくのをやめず、2どえんぴつをくちにくわえて、1どなんかそれをとうみつにひたしたりして。

ほえまくるピクルスはついにこえまでからします。なのにおまわりさんはきにとめるそぶりさえなく。ビーズのめにぬいつけられたヘルメット。



ようやく なんとか おもいきって とびかかった ピクルス —— ところが お
みせは もぬけのからで。 おまわりさんの すがたも ありません。
とはいえ ふうとうは そのまま。



「どうおもう、ほんものの おまわりさんの ひとを よびに もどったのかな？
それ もしかして よびだしの てがみ？」と ピクルス。

「ちがう。」と こたえるジンジャーは ふうとうを ひらいていまして。「ぜいきん
だぜ、ちほうと くにの。おうどうか3まい はくどうか19まい どうか3まい
に せいどうか4まいだとき。」

「とどめの いちげきか。」と ピクルス。「おみせを たたもう。」



ふたりは シャッターを しめて でていきました。 といっても そこから とお
くへ はなれてしまったわけでは ありません。 まあ もっと とおくへ いきや
がれって ところで おもっていた むきも あるのですが。



ジンジャーの　いまの　すまいは　ウサギの　すむような　あなのあたり。　どんな
しごとを　やろうとしているのか　わたしには　わかりません。　なんだか　ふとって
しあわせそうですが。



ピクルスは いま かりばの ばんにんを しています。



おみせが しまったことで たいへん ぶべんに なりました。 ぐいぐいタビサは
しなものを みんな ねあげしたうえ いままでどおり ツケを うけつけてはくれ
ませんし。



もちろん ものうりの にぐるまは まわってきます — おにくやさんに、 う
おやさん、 それから ぱんやきティモシー。

でも 〈キャラウェイシード〉のパンケーキや スポンジケーキ、 バターロールパ
ンだけでは なかなか いきてはゆけません — ティモシーが つくるほど おい
しい スポンジで あってもです！



しばらくすると やまねずジョンさんと そのむすめさんが ペパーミントと ろうそくを うりはじめました。

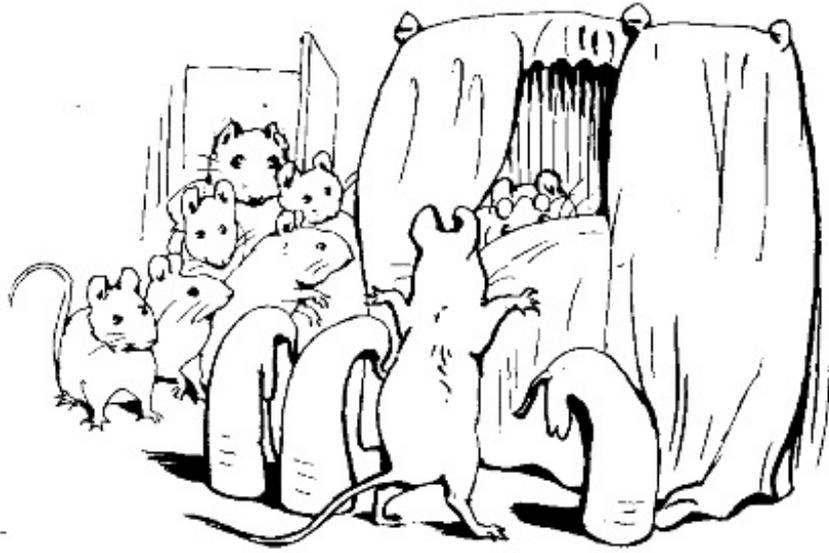
ところが はかりうりを してくれませんか。 ですから 18センチの ろうそく1ぽん はこぶのに ハツカネズミ5ひきがかりで。



しかも ー ー しなものの ろうそくは ぽかぽかした ひには おかしなことになってしまって。

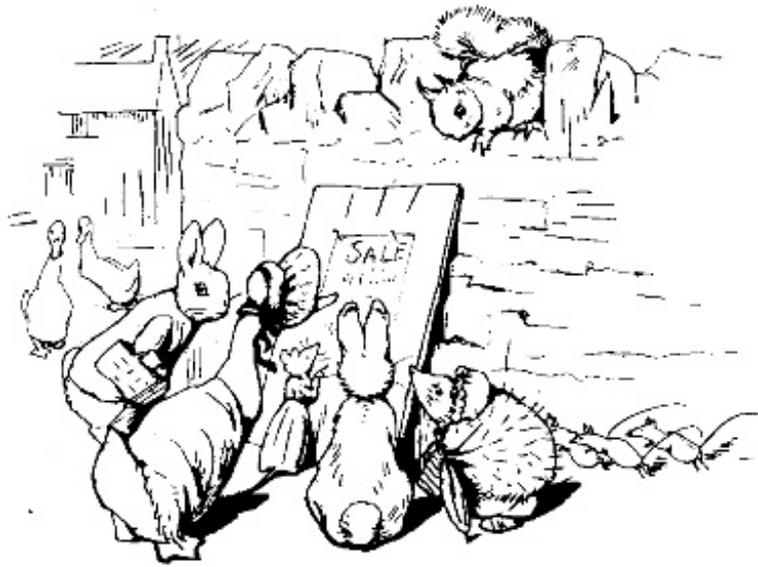


さらに やまねずの むすめさんからは きれはしの はらいもどしを こぼまれて
。 もんくを つけて しなものを つきかえそうとしたのに。



また もんくを いわれた やまねずジョンさんにしても ねたきりですから 「きもちええわ」としか いいそうになくて。 ものを うるどころでは ないかんじです

。



ですから みんな よろこんだんです、 なんと へにペにサリーが おみせを ま
た ひらくつもりだって はりがみを だしたものですから ーくへにペに かいて
ん セール! だいほりだしものいち! へにペに おおやすうり! きた みた か
った!>

はりがみは ほんとうに ころおどるもので。



おみせの ひらく ひには みんな おしよせました。 おきやくさんで ぎゅうぎゅう、 ハツカネズミが おおぜい ビスケットの かに のっかたりして。

おつりを かぞえてみる へにペにサリーは ちょっと あたま くらくら、 それでも げんきんで おしはらいを と いいはって、 なんというか まじめなかなのです。



それからというもの いまでも ほりだしものの しなぞろえは ばっちり。
だれでも きにいるものが きっと みつかるわけです。

[おしまい]

Original Text: *The Tale of Ginger and Pickles* (1909)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

ジンジャー&ピクルスのはなし

<http://p.booklog.jp/book/61967>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/61967>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ